

令和元年度 第3回能勢町子ども・子育て会議
議事録

日時	令和元年12月6日(金) 13:30~15:30
会場	保健福祉センター 多目的室
出席者	委員：小島会長・樺山副会長・松尾委員・八木委員・植田委員・三浦委員・高井委員・市村委員・三島委員・三好委員・齋藤委員・中谷委員【計12名】
傍聴者	2名
事務局	健康福祉部：瀬川 寛・藤原 伸祐・西村 由紀子・倉中 優・上森 洋祐・岩崎 賢太 教育委員会：寺内 啓二・古畑 まき・辻 新造

次第

- ・開会
- ・案件
 - ①第2次能勢町子ども・子育て支援事業計画（素案）について
 - ②その他
- ・閉会

案件① 第2次能勢町子ども・子育て支援事業計画（素案）について

三浦委員	「子供」、「子ども」の漢字の表記のゆれを修正してほしい。
事務局	修正する。
植田委員	18ページ「切れ目のない支援」に関連して、先日の「tsudoi」の際、保健師の方に、現場の声を反映するため、子ども・子育て会議の事務局に入られた方が良いのではないかというお話をした。保健師の方も、参加したい意向があるようだ。子育ては妊娠の時から始まるので、現場の話を直接聞けるように、保健師の方にも入ってほしい。 21ページの「産後ケア事業」について、「支援が必要な」という言葉は堅く、保護者の立場で考えると、自分は使ってはいけないものという認識になり、ハードルが上がる。気軽に使える言葉を使ってほしい。支援を受けようとする際、この言葉がネックとなる場合もある。 産婦健診とは何か。
事務局	保健師には意見照会をしている。現場の声を直接反映するには、保健師の方に事務局に入っていただくのも有効かと思うが、担当部長が出席していることを踏まえ、今後検討したい。 「支援が必要な」という書き方については、例えば「寄り添いが必要」などといった言い換

	えを検討したい。 産婦健診の内容については確認する。
樺山副会長	産婦健診は、産後すぐから1ヶ月までの人が対象の国の制度だと思う。ただ、健診を受ける人と受けない人がいる。出産後にも産科に行くような人が使うと思う。
小島会長	国の基準を確認して欲しい。
三島委員	6ページを見ると、人口減を前提とする計画となっているが、これを良しとするのか。この計画は、まちづくりと対応すると思うが、子どもが減り、町が縮小していく中で、全体のまちづくりがどのようなものか見えづらい。例えば「遊び場がない」という意見があったが、既存の施設というのは旧校の事かと思うが、例えば池田などでは旧校にNPOなどが入って、活動がすぐ始まるようで、旧校を活用した町おこしとなっている。人を戻す取り組みという視点があっても良いのではないか。旧校をどうするのか関心がある。
事務局	人口減少については、平成27年度に総合戦略を策定した際、地域の実態に即したものであるということで、このようなビジョンを提示している。国が示した人口減少パターンよりも改善する計画となっていて、対策を実施したとしてこれぐらい下げ率が改善されるという想定をしたもの。 公園については、十分整備ができていないが、新庁舎の前に芝生広場を作ることが決まっている。 学校跡地については、借地だったものは土地の返却を基本に調整しているが、田尻地区などでは地元協議により活用を検討されている。また、町をあげて企業誘致を行っているが進んでいない。 産婦健診については、産後2週間前後と1か月前後に、合わせて2回ケアを受けられる国の制度である。産後ケアとの関連だが、産後ケア事業を実施していない自治体は産後健診ができないといった制限がある。
小島会長	制度があっても、どれだけの方が知っているかが重要である。
植田委員	産後ケア事業は助産院で実施するので、助産師や保健師に聞かないのが現状ではないかと思う。
小島会長	知らない人も多いと思うので、周知してほしい。
植田委員	この計画は、出生率を上げるまたは未婚率を下げるという目的も含まれるのか。例えば二人きょうだいで一人が家を継ぐと二人目は出て行ってしまう。
事務局	未婚率の改善については、別の計画での協議となる。
高井委員	遊び場について、室内の遊び場があるのはありがたいが、子どもにとっては外遊びの場所が重要。芝生広場で遊具を作るのか。
事務局	庁舎整備については現在実施設計段階で、遊具の設置については把握していない。子ども・子育て会議でそうした要望があったことは伝える。
高井委員	土日などで気軽に遊びに行ける場所がない。外で遊具があって遊べる場所がある。21ページの「年長児支援」はいつから始まったのか。

事務局	平成 30 年度から、就学前の子どもを対象に、保健福祉センターとささゆり学園で行っている。小学校の授業を模したスタイルで、OB の元教師が体験授業をして、その様子を見るものとなっている。
高井委員	みどり丘幼稚園でも年長児の教育の取り組みが行われている中で、子どもにとって混乱しないか。参加者は多いのか。
事務局	20 名ほど参加があり、月一回のペースで全 6 回の授業を行っている。15 分から 20 分の勉強時間の経験を持ってもらい、勉強をするということに慣れてもらう機会となっている。また、子供同士や保護者同士のつながりも狙っている。5 歳児の健康診断後に行っており、相談できる機会にもなっている。先生は丁寧に授業してくれている。
三浦委員	幼稚園ではものを教えるのではなく感性を教える取り組みをしている。人の基礎を学ぶのが幼稚園であり、連携してできれば良いと思う。
小島会長	子供が希望を持って学校に行けるよう、相互に取り組んでいただきたい。また、支援の情報が伝わることによって、応援や助けを求められるようになるので、周知徹底をお願いしたい。
三島委員	能勢町ならではの要素として、進行管理に関係団体が入っているのが良いと思った。能勢町では、地域の人と一緒に活動するための繋がりがある。また、協働・地域分権の時代なので、地域に予算を配分して、自ら地域づくりをしてもらうといったやり方や発想もある。そうしたやり方があれば、地域でできることもあると思う。
中谷委員	西能勢少年野球チーム出身の選手が、この春の選抜高校野球大会に出場するので応援してほしい。また、野球チームに子供がもっと加入してほしい。
小島会長	子どもが減ることで活動できていないチームも増えている。
市村委員	委員として積極的に周知啓発を担うためにどうすれば良いのか。 妊婦健診について、里帰り出産の人は受けることができるのか。
事務局	周知については委員の方からも周知に協力頂きたいし、このような開かれた会議で、関心のある方に傍聴に来ていただきたい。また、パブコメの機会に情報発信し、広報も行う予定。この計画書の内容を、概要版で分かりやすくまとめたものを配布することも検討したい。 里帰り出産の方の健診については、保健師に確認する。
三島委員	地域の人が頑張っているのに少子化が進んでいく。幼稚園には町外の人が多く来ていて、その中で、トラスト協会と一緒に、自然を活かして子どもと保護者が活動している。子育ての関係団体として協働も検討できるのでは。
三浦委員	子どもたちにはスポーツをしたい希望があり、幼稚園の施設を使ってラグビーの活動している。小学校のグラウンドを使う手続きが煩雑だったとの話もあった。子どもの活動に関する団体として、町内に限らず広く協働することもできる。
植田委員	団体について、農家の立場からは、地域の農家も巻き込めないかと思う。幼稚園の繋がりで、芋掘り会をしたことがあるが、参加希望の人が多く、遠くから足を運んでくれること

	もある。こうした楽しい体験が、能勢町で子育てしたいという気持ちにつながるのではないか。都会ではできない体験といったものが定期的に行けると、町の特徴となると思う。
保育所長	保育所や幼稚園でも、自然環境を活かして体験活動を行っている。田植えや農業体験では、収穫した米で餅つき大会をしたり、ウォーキングリーダーとの散歩でつくし採りをしたりする。そういった体験を覚えておいてほしいと願っている。
小島会長	そのように経験が豊かになると良いと思う。 会議の終了時間が近づいているが、この計画素案について承諾しても良いか。
一同	異議なし

案件②その他

- ・今後のスケジュールの説明
- ・当日配布資料の説明
(質疑なし)

以上。